

松阪市議会

西村友志 議長 様

平成29年1月13日

報告者 松阪市議会

前川幸敏

### 視察報告

今回、下記のとおり行政視察を実施いたしましたので内容を報告します。

#### 記

- 1、視察の日程 平成29年1月10日～1月12日
  
- 2、視察先・視察項目・視察時間
  - 1月10日 熱海市役所  
営業する市役所について  
13:00～ 1時間30分程度
  
  - 1月11日 三島市役所  
男性の育児休業取得奨励事業について  
13:00～ 1時間30分程度
  
  - 1月12日 伊東市役所  
新公共経営システムについて  
13:00～ 1時間30分程度
  
- 3、視察参加者 前川幸敏
  
- 4、視察内容 要点のみ記載

以上

## 視察内容

熱海市(営業する市役所について)

担当者 観光経済課・産業振興室・室長・小山みどりさん



営業する市役所として、民間投資プロジェクト・企業とのパートナーシップ・熱海市チャレンジ応援センターを成功させる為に、経済産業省から副市長を招へいされた。

民間への投資を呼び込む為に、副市長＋観光経済課＋都市整備課がプロジェクトチームを設置、市有地への民間投資促進のため営業活動・誘致活動を始める。

お金を借りる前に知恵を借りる。熱海市役所にはないノウハウ・ネットワークを外部と連携する事で補完する事ができる。

熱海市と商工会議所が連携して知恵と工夫、情報とネットワークを駆使して挑戦する事業者を応援する事ができる。

### 民間投資の促進

成長を実現するためには民間の活力を活用して本市に民間投資を呼び込むことが必要  
市所有の遊休地を活かしていく必要がある

プロジェクトチームを設置して市が所有する遊休不動産情報を一元化、まずは関心を持つ企業を探し開発の可能性や候補案件について知ること。

幹線道路沿い市有地活用計画を公表

庁舎に新たな部署を設置(総務課施設企画室)

企業とのパートナーシップ協定

地元銀行との熱海市活性化に関するパートナーシップ協定を締結

挑戦する事業者を応援

熱海市観光経済課産業振興室と商工会議所が連携し、売り上げ増加に向け事業者の皆さんと一緒に考え、コストをかけずに知恵を出す、そして結果を出す。新たな個店支援事業。

## 「所感」

A—b i zのフェイスブックの運用開始で、チャレンジする事業者の紹介やトレンドの分析、参考情報の提供・熱海市の個店の魅力発信など行き届いている。

相談事例の紹介など細かく発信をされている。

福の道プロジェクトは、来宮神社近くに出店したパン樹から、店の中にあるイートインスペースを周辺の店に活用してもらい地域を活性化したいとの相談もあったこと。

来宮神社と個店が連携「福の道プロジェクト」を始動をされた。

又、この道は熱海駅につながる道にも広がりを見せ新たな店舗増加、福の道に福がきたと連携プレーが重要だと考えさせられました。

## 三島市(男性の育児休業取得奨励事業について)

### 取り組みの経緯



平成23年、三島市男女共同参画プラン推進会議にて男性の育児休業取得率向上を積極的に対応すべきとの意見が出された。

同年、三島市男性育児休業取得補助金を創設

静岡県・子育て理想郷「ふじのくに」地域モデル事業交付金を活用

平成26年から市単費で実施

三島市の男性の育児休業取得支援制度の概要

5日以上の育児休業を取得した男性労働者及び事業主に対し1日五千円を支給する

交付対象労働者 三島市在住の男性労働者

雇用保険の被保険者

1歳未満の子に対し連続する5日以上の育児休業を取得し復職している

市税の滞納がないこと

交付対象事業者 労働協約又は就業規則により育児休業制度を設けていること

市税の滞納がないこと

## 事業のねらいと成果

男性の家事・育児への参加を促すと共に夫婦が平等に責任を分担し仕事と家庭の両立ができる環境の整備を図る

家事や育児に積極的に関わるイクメンが増える事で女性の生き方や家族の在り方良い影響が生まれることを期待している

本制度が職場における育児休業の取得しやすい環境づくりに貢献した三島信用金庫が厚生労働省から「プラチナくるみん」を認定

## 今後の課題

重複申請→上位2社で全体の50%

利用企業は40社近くに及び制度の周知は図られているが中小企業においては制度利用の機会が限られている。

制度の見直し→決算額は横ばいだが、庁内で見直しを求める声も出ている

奨励金(扶助費)への変更を検討、交付対象や金額の見直しも。

## [所感]

男性育休・100パーセント・5年連続達成。取るのが当たり前の空気に。

三島市の三島信用金庫の取組は、働きながら子育てをしやすい職場づくりに高いレベルで取組む企業が貰える「プラチナくるみん」認定を厚生労働省から受けられた。

全国平均が2パーセント前後に留まる中で男性職員の育児休業取得率100パーセントを5年間連続で達成するなど仕事との両立を応援してきた取組みは群を抜いているのは素晴らしいと実感をしました。

今後は、性別や障害の有無にかかわらず、より働きやすい職場を作っていくのだとの決意を持って仕事をされていると教えていただいた。

松阪市も今以上に、働きがいのある職場づくりに全力で取り組んでほしい。

又、私達議員も常に職員が全力で仕事に頑張っているかを厳しい目で見えていくべきだと実感をしました。

伊東市(新公共経営システムについて)

担当者 理事 露木満さん 企画部行政経営課 小川真弘さん



伊東市システム3つのキーワード

現場主義→現場を大切にした行政運営

目的指向→目的達成のための効率的な行政運営

意識改革→職員の市政に対する積極的な姿勢を持った行政運営

伊東市の財政状況がもとで

歳入では景気の停滞による市民税の落ち込み、固定資産税の減収、特別地方消費税の廃止、三位一体の改革による国県支出金の減など

歳出では、観光地の特殊性として人口規模以上の行政需要があることによる経費の増  
生活保護費等の福祉経費の増。高齢化率の上昇による医療費等の増。

目的指向による業務の見直し

伊東市 ITO システム→サマーレビューの実施→人件費とか事務事業など

現場主義(現場を大切にした行政運営)

現場主義の考え方

市民のニーズは現場にあり。現場の意見や情報を施策に反映させる。現場から色々な考え方や情報を収集して行政運営の糧とする。市民と行政が共同できる仕組みをつくる。

### 具体的な取組み

やる気のある地域を応援する事業の創設。地域応急処理費の充実。学校施設に校長・園長裁量の現場の目線に立った修繕費の配分。各課に行革推進リーダーを置く。市長のトップセールス。

### 未来協知の実現

市長方針の提示→未来協知への仕事→各部における施策構築→戦略事業会議→予算編成→実現

### 今後の課題と展望

市民と行政が協働できる仕組みづくり。目的指向型行政運営のレベルアップ。職員のインセンティブを高め一人一人の創意工夫。国県・他市と連携専門性の高い業務に効率的・効果的に対応。

### [所感]

伊東市は、3つのキーワードを基本ニーズにして改革に取り組んでみえる。人口減少はどこの市町村でも共通の頭を悩ます問題ではあるが現場から声を聞き、ずっとすみたい・また来たい、健康保養都市を目指して見える。

又、伊東市も松阪市と同じく競輪場もあり赤字だったのを改善もされている。

歳入・歳出面からも税収の落ち込み、経費の増大を改善されようと現場から目的指向から意識改革からと業務の見直しに積極的に取り組んでみえる事は見習うべき所は沢山ありました。